

今月号では、愛媛県緊急雇用創出事業で就業され、最前線で求職者や専門学校生を支える活動に取り組みされている方々の、現場の声をお届けいたします。

【パート1】愛媛県地域共同就職支援センターにて、「生活・就労の相談」を担当されている西川相談員の活動をご紹介します。

Q&A

●「愛媛県地域共同就職支援センター」の特色と西川相談員のお仕事内容をお聞かせください。

愛媛県地域共同就職支援センターは、平成21年3月、本県雇用促進の中核施設として愛媛県と愛媛労働局とが共同で設置しました。国が職業相談員5名、求人検索パソコン9台を配置して職業相談・職業紹介・求人情報提供を行い、県が生活・就労相談員を配置して生活・就労相談や雇用関係情報の提供を行っています。同じフロアで国と県の両方から就職活動に必要なサポートが得られるため、時間的にも、スペース的にも余裕をもって相談できることが大きな特色です。

私は今年の3月から愛媛県の事業である生活・就労相談を担当しておりまして、就職活動をされている方の就労の支援やサポートをしております。就職活動を続けていくために必要なこと、さまざまな悩みについて、個別にじっくりお聞きし対応することを心がけており、生活・住居支援・能力開発訓練・融資など多岐にわたる相談業務を受け付けております。

●相談員としてご勤務され8ヶ月が過ぎようとしてますが、就職支援センターにいらっしゃる方の状況になにか変化などはございましたか？

就職支援センターが設置された当初は、マスコミに大きく取り上げられたこともあり、若い方がグループで多くいらっしゃいました。それがきっかけとなり、後日お一人で相談にお見えになるケースが多かったです。

8ヶ月たった今は中高年の方が多く、それも相談に何度も足を運ぶリピーターの方が多いですね。これは「若年者と比べ中高年の方の就職活動はかなり困難な状況」という事情も背景にあるからです。求人情報をご覧になった方は一様に、厳しい雇用状況に愕然とされます。特に、何十年も同じ仕事をしていた男性は、家族を背負っているのになかなか現実を受け入れることができませんでしたが、複数回こちらに来訪され相談されているうちに、気持ちを切り替えることができ、今では新たなお仕事に就かれています。

再就職を決意するには思った以上のエネルギーが必要ですので、そのお手伝いのためにお役に立てばうれしく思います。

●就職活動をがんばっていらっしゃる方のため、具体的なアドバイスをいただけませんか？

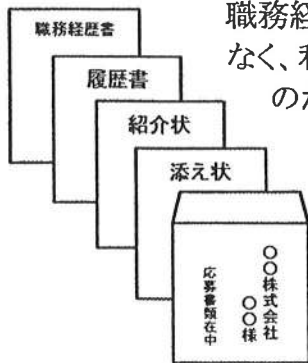
雇用情勢が厳しく、1名の募集に対して、30名もの応募が殺到する状況で、企業側は全員の方を面接するのは大変なことから、書類選考で面接対象者を絞りこんでいるのが現状です。

求人を見て企業に履歴書を送り、面接をするのはお見合いと一緒に考えていただければわかりやすいのではないのでしょうか？応募する際には、相手のことをよく知らなければなりません。インターネットなどを使い会社の業務内容などの下調べは必須です。ましてや社長の名前も知らずに応募するのはとんでもないことです。

次に相手に、自分のことをわかって貰う努力が必要となります。書類審査に通過しなければ、面接のチャンスを得られることができないわけですから、面接までたどり着く履歴書・職務経歴書を、創意工夫して書くことが重要です。履歴書を何社にも送って面接にたどり着けない方は、職務経歴書を重要視できていない方ではないでしょうか？そこで応募の際には、下記の応募書類4点セットをご用意ください。

応募書類を作成する際の注意点について

- ・添 え 状・・・送付の挨拶に加えて、熱意や経験をアピールします。
 - ・紹 介 状・・・ハローワークはハガキ、就職支援センターは書類をお渡します。
 - ・履歴書A4判・・・愛媛ではJIS規格に自筆が基本です。
 - ・職務経歴書・・・パソコンが使える、レイアウトに創意工夫ができることを示すチャンスです。
- 職務経歴書には、ただ単に「〇〇ができます」といったことを羅列するのではなく、私は「御社にとってメリットのある存在である」というのをアピールするのが重要です。志望動機を明確にしてください。



※上記の書類は折らずにクリアファイルに入れ、封筒に入れます。宛名は省略せずきちんと正式名称を記入してください。表書きの左端に「応募書類在中」を朱書きするのを忘れずに。裏面に差出人である自分の住所・氏名を書いてください。

このようなことを心がけることが大切ですし、私はそのようなアドバイスを行っております。

●新たな就職活動に必要な心構えとして、必要なことはございますか？

転職すると収入は前職より下がる場合がほとんどです。厳しいですがこれが現実です。相談を通じて感じたことですが、30歳代後半から40歳代の女性の方は、前のキャリアを引きずってしまう方が多いようです。また同じ会社で頑張ってきた50歳代の男性は、「自分がなんとかしなくては」とすべてを抱え込んでしまう傾向があります。こうした人達は、転職先の給料の金額が、これまでの半分以上になることが信じられず、過去に囚われて状況を受け入れることにはかなりの時間がかかります。しかし、50歳代の多くの女性は、面接に失敗してもへこたれず、すぐに気持ちを切り替え、また次のチャンスに果敢に挑戦されています。

就職活動に一番必要なことは、まず過去をふっきるという心構えが必要です。

●ご自身の就職体験を窓口にいちゃった求職者の方にお話をされ、励まし、色々とお相談に乗っていらしゃいますが、仕事を通じて感じられる事柄はございますか？

窓口相談の業務をして、「この仕事をやって良かった嬉しかった」ことがたくさんあります。その中でも特に印象に残っているのは、就職が決まり新しい人生を歩んでいる方が、「仕事でアイテムえひめの近くまで来たので、顔を見に来ました。」と来訪してくださることです。その方のご相談を受けたのはほんの数時間、しかも数ヶ月前の出来事なのですが、わざわざ私に会いにお越しくださることは、この仕事をされていて本当に良かったと思います。そのことが、私自身の仕事のエネルギー源になっていると感じています。

—編集者の声—

西川相談員のご活躍をテレビで拝見していましたが、想像どおりとても気さくな方でたくさんご自身の体験をお話くださいました。だからこそ、いろんな事情を抱えて就職支援センターを訪れる方は、安心して西川相談員に相談されるのだと感じました。お話を聞くことができ本当に良かったです。

【パート2】専修学校等就職支援事業にて、学生の就職に向けて「求人開拓と就職情報の収集・提供」をされている就職支援推進員の方々のお話をご紹介します。

Q&A

●早速、皆さまのお仕事内容をお聞かせください。

私たちは9月から、専修学校等就職支援事業にて各専門学校の学生の就職先の求人開拓をしております。訪問先は、職業技術教育の分野に合わせ、医療・福祉・美容・デザイン・服飾・コンピューター関係と多岐に渡っております。各学校によって求職の内容が異なるので、その要望をまんべんなく行きわたらせようということで始まり、我々が得てきた求人情報が各学校で活用されるというシステムです。

訪問活動を始めて感じたことですが、個人事業主の多くの方は求人の募集をする際、ハローワークに募集をかけるか、就職情報誌に募集を載せることしか知らなくて、専門家を募集するのにその専門家を育てている専門学校に、問合せをすることをご存じなかった状況でした。

このことは双方にとってもったいないことです。一方、以前から学校との付き合いがある会社は、専門学校を継続的に受け入れています。学生にとって、企業と学校との間に就職のつながりが出来ているのが一番いいですね。私たちは学校と会社のつながり、お互いにPRが出来るそのパイプ役になればいいなと思っています。

●学生の方の就職のため求人開拓をされている皆さまの中で、感じられていることをお聞かせください。

よく企業の方は「良い人材が欲しい」と言いますが、最初からすぐに出来る人はおりませんから、人を育てるのは会社だと思います。学生さん達は、自分が思っている仕事と実際の仕事が一致するかどうかは分かりません。そこで在学中に仕事や研修を経験できる企業もあるようで、各企業もそのような努力をされないと、良い人材が採れないのではないかと私はこの仕事をやっていて感じました。

訪問したある会社の方が、仕事を進めていく上では、「目的と目標を持って取組まないと前に向いて進めない」と話してくれました。そのことは就職活動でも共通することで、まず目標を立て、いつまでにそれを達成するか明確に決めれば、おのずと自分のすることが具体的に決まり、それに向かって思いっきり努力が出来ると考えます。

実は私たちは、営業経験はほとんどありません。正直、最初は畑違いのためやりづらく、各事業所への電話や、飛び込み営業は難しかったです。しかし、だんだんやっていくにつれ説明もうまくできるようになり、自分から次はここに行ってみようと思えるようになりました。与えられた仕事に対して、目標を定め行動することを通して、誰だってやったら出来るものだと感じています。

●就職活動を頑張っている方々に、伝えたいことはどのようなことですか？

自分の生き方や考え方が何かのキッカケで大きく変わることがありますが、私にとっては、早期就職支援コーナーで受けたセミナーがそれです。そのセミナーは「自分らしく生き生きと働くには」というテーマで、自分に直面していることや今後の生き方についての話があり、心が沁みました。それはもう、後ろから頭を殴られるくらいの衝撃を受け、私も変わらなければと、自分を見つめ直すいい経験となりました。良い映画を見て涙を流すより現実的な話でした。

講演後、マイクを向けられた私は「勇気と希望を与えられた気がします」と、素直に感想を述べることができました。すると後方から拍手が起き、みんなが共感してくれたことがわかりました。この体験は、自分が変わる良い機会となり、そうしたきっかけで勇気が出たり、昔の自分から卒業できることがあるんだと感じています。

企業は、働いている人がいるから成り立っており、仕事をするのは人間だし、人材を生かすのも人間です。人とのつながりを大切に、結びつきの努力をすることで自分が変わることができると思います。厳しい就職活動の中では、何かのせい、誰かのせいにしたいものですが、まず個人個人が変わらないといけないと思います。何度も言いますが、そのためにはまず目標を持つことだと感じています。

私自身も頑張っていますが、就職活動に取り組まれている方々の何かのヒントになれば幸いです。

一編集者の声一

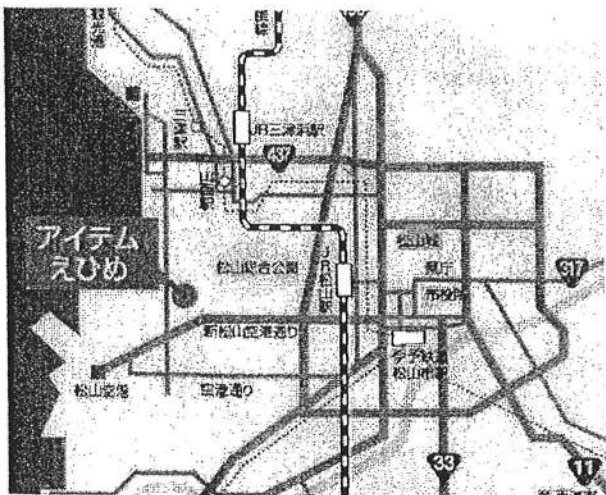
専門学校が地域の企業活動の中で果たしている役割を知ることができ、同時に県内の雇用状況の厳しさをお話の中から感じ取りました。そんな中で、愛媛県全域を対象に求人開拓に奔走されていらっしゃる皆さまには、本当に頭が下がります。お忙しい中、ありがとうございました。

愛媛県地域共同就職支援センターのご案内

- 住所：松山市大可賀2丁目1-28
アイテムえひめ3階
- TEL：089-946-8023
- FAX：089-953-5177
- HP：<http://www.ehime-tkssc.go.jp>

■アイテムえひめへのアクセス■

- 松山空港から車で約15分
- 松山観光港から車で約10分
- 松山市駅から車で約30分
(定期路線バス30分毎に運行)
*松山市駅④乗り場→アイテムえひめ前下車
- JR松山駅から車で約15分
- 松山ICから車で約40分



専修学校等就職支援事業のご案内

専修学校は、1975年(昭和50年)7月に制度制定以来、柔軟な教育制度を生かして、時代の要求に応じた多様な教育を展開し、日本の「職業教育」「技術教育」を牽引しています。

大きな特徴の一つは、就学年齢の幅の広さで、専修学校は、入学資格の違いにより3つの課程に分かれています。

- 専門学校・・・高等学校卒業程度の方を対象。
- 高等専修学校・・・中学校卒業程度の方を対象。
- 一般課程・・・入学資格や年齢に関係がありません。

■専修学校で学べる8分野(職業別)■

- 工業分野
SE・ゲ-ムクリエイター・電気工事士・自動車整備士・建築士・インテリジェンスなど
- 農業分野
ガーデン・フラワーデザイナー・園芸技術者・トリマー・科学分析スタッフなど
- 医療分野
看護師・歯科衛生士・歯科技工士・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・診療放射線技師・柔道整復師・はり・きゅう師・あんまマッサージ指圧師など
- 衛生分野
調理師・栄養士・食品衛生管理者・パティシエ・バーカー・美容師・美容師・メイクアップアーティスト・エステティシャンなど
- 教育・社会福祉分野
保育士・幼稚園・小学校・養護教諭・介護福祉士・精神保健福祉士・ホームヘルパーなど
- 商業実務分野
税理士・公認会計士・秘書・旅行業スタッフ・ホテルスタッフ・添乗員など
- 服飾・家政分野
ファッションデザイナー・パタンナー・スタイリスト・ファッションアドバイザー・マナーアドバイザーなど
- 文化・教養分野
ディレクター・脚本家・カメラマン・通訳・ガイド・フリーランス・国家公務員・地方公務員・司法書士・行政書士など

愛媛県委託事業(平成21年度労働者の声発信事業)

発行 社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

〒790-0066 松山市宮田町125番地 愛媛労福協会館3階

TEL: 089-946-2296 FAX: 089-947-5616

メールアドレス: e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp